

白山の火山活動解説資料（平成 31 年 3 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 2）

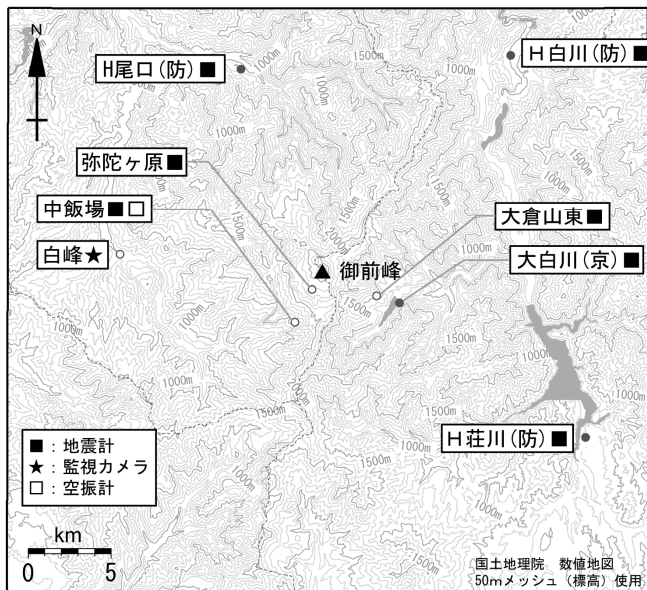
白峰監視カメラ（白山山頂の西約 12km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

・ 地震や微動の発生状況（図 3～4）

6 日 7 時～9 時台及び 21 時～22 時台に、白山の山頂（御前峰^{ごぜんがみね}）付近を震源とする地震が一時的に増加しました。6 日の日地震回数は 59 回で、最大のマグニチュード¹⁾は 1.1 でした。

その後、地震活動は低調に経過し、また低周波地震や火山性微動が観測されていないことから、火山活動は活発化しておらず、これまでも時折みられていた一時的な地震増加と同様の活動とみえています。最近では 2019 年 1 月 12 日に一時的に地震が増加し、日地震回数は 50 回で、最大のマグニチュードは 2.1 でした。

1) この値は暫定値で、後日変更することがあります。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(防)：防災科学技術研究所、(京)：京都大学防災研究所

図 1 白山 観測点配置図



図 2 白山 山頂部の状況
(3 月 9 日 白峰監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（平成 31 年 4 月分）は平成 31 年 5 月 14 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

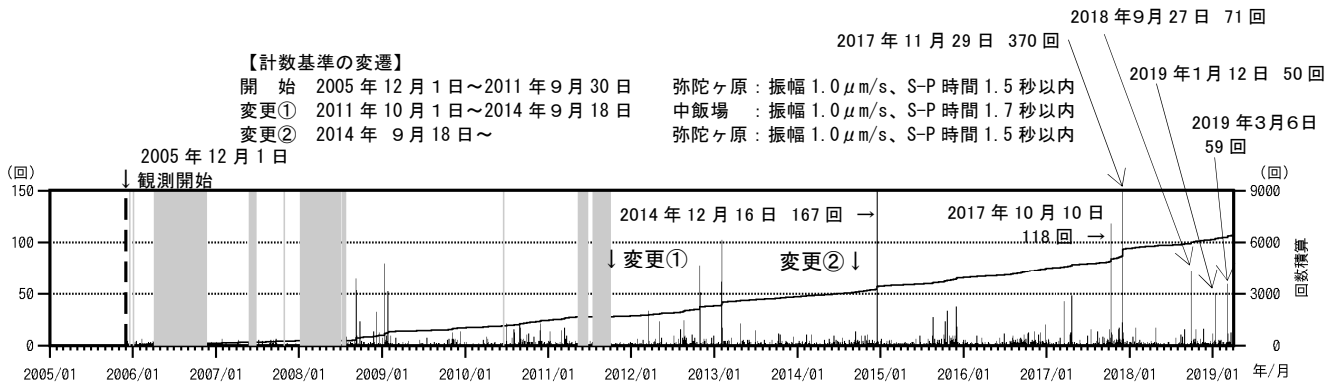


図 3 白山 地震活動経過図及び地震回数積算（2005年12月1日～2019年3月31日）
図の灰色部分は機器障害による欠測期間

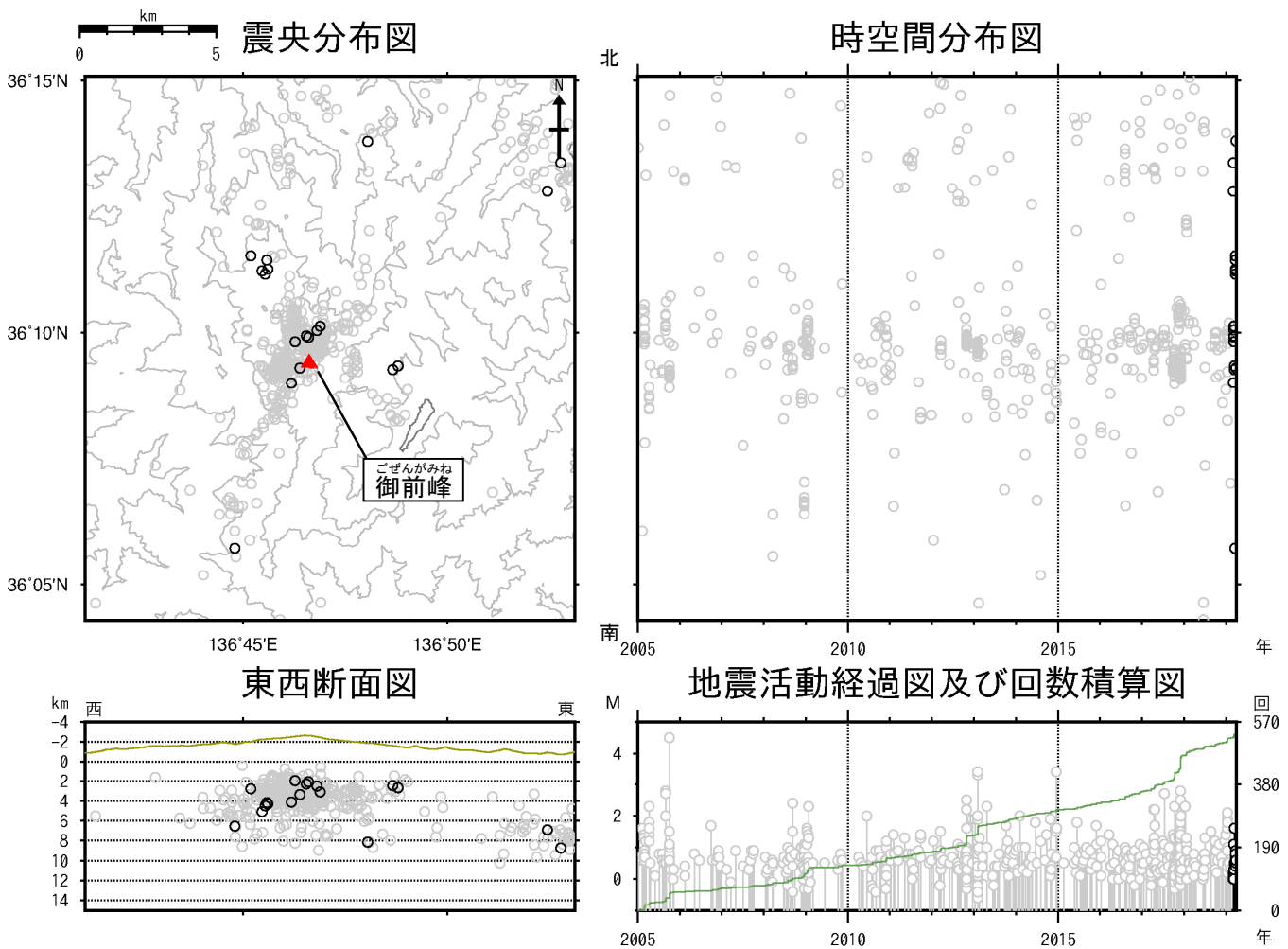


図 4 白山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2005年1月1日～2019年3月31日）
○：2005年1月1日～2019年2月28日 ○：2019年3月1日～3月31日
広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
図中の震源要素の一部は暫定値が含まれており、後日変更することがあります。